

骨粗鬆症患者の
ビスホスホネート製剤に関する薬識
についてのアンケート

近畿大学 藤本理子
施設名：イソノ薬局

施設紹介

イソノ薬局

住所：大阪府松原市上田1-10-9

電話：072-331-0046



目次

- 背景
- アンケート内容
- 結果
- 考察

背景

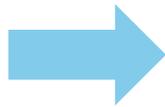
医療介護連携委員会「骨吸収抑制剤服用患者の対応」に参加

昔

BP製剤は副作用に顎骨壊死があるため、
歯科・口腔外科での外科的治療時には休薬すべきだとされていた。

現在

「基本的にはBP製剤は休薬する必要はない」と結論に至った。



とはいえ、BP製剤患者は顎骨壊死のリスクはあるため、
歯科受診の必要性を教育する必要がある

アレントロン酸錠35mg「サワイ」

<服用方法と注意事項>

このお薬は**毎週1回1錠**を決められた曜日にのんで下さい。(毎日のむお薬ではありません。)

- **のみ**忘れた時は、気づいた日の翌朝に1錠をのんで下さい。次からは、あらかじめ決められた曜日にのんで下さい。**決して同じ日に2錠をのまないで下さい。**
- 胸やけ、のみ込む時の痛み、のみみにくさを感じた場合は、服用を中止して、すぐに主治医または薬剤師に相談して下さい。
- **歯医者さんを受診する場合は**、必ずこの紙を見せて下さい。(歯科・口腔外科の先生方へ：本剤はビスホスホネート系薬剤です。)

(裏面に続く)

お薬の効果を高めて副作用を減らすため、必ず次のようにのんで下さい。

- **朝起きた時**(食事前)に、1錠を**コップ1杯の水(約180mL)と共に**のんで下さい。
<注1> 水道水やぬるま湯でのんで下さい。
- このお薬をかんだり、口の中で溶かしたりしないで下さい。
- のんでから少なくとも**30分間は横にならず、水以外の飲食や他のお薬の服用をさけて**下さい。
<注2> のんで30分以上過ぎてから、その日の最初の食事とって下さい。食事を終えるまで横にならないで下さい。

ご不明な点は、主治医または薬剤師におたずね下さい。

(> 裏面)

S01 A130601

BP製剤は用法にも注意すべき薬



患者さんはBP製剤についてどの程度、薬識をもっているのか？



BP製剤服用患者さんを対象に実態調査アンケートを実施

アンケート内容

Q1. どのくらいの期間、服用を続けていますか？

1年以内 2年以内 3年以上

Q2. 薬を正しく服用されていますか？

はい いいえ

Q3. 以下の服用方法を守れていますか？

①朝起きた時(食事前)に服用する

はい いいえ

②コップ一杯(約 180mL)以上の水と共に服用する

はい いいえ

③のんでから少なくとも 30 分間は横にならない

はい いいえ

④のんでから少なくとも 30 分間は水以外の飲食や他のお薬などは口にしない

はい いいえ

⑤嚙まずに服用する

はい いいえ

Q4. 現在、歯科受診されていますか？

はい いいえ

Q5. 歯科受診した方がよいことをご存知ですか？

はい いいえ

Q6. 顎付近に痛みはございますか？

はい いいえ

Q7. 胸焼け、のみ込む時の痛み、のみ込みにくさはございますか？

はい いいえ

Q8. 薬の副作用に「食道潰瘍」があることをご存知ですか？

はい いいえ

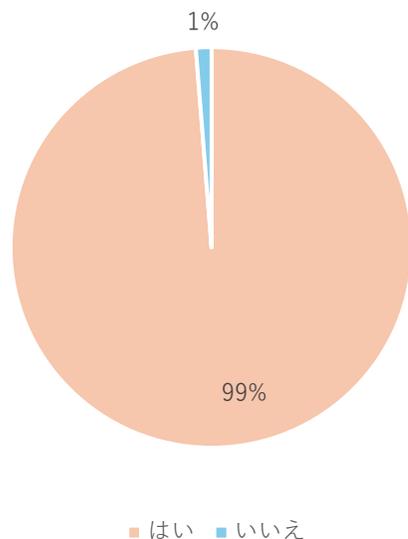
アンケート集計

年齢	回答人数
50代	1人
60代	2人
70代	5人
80代	8人
計	16人

結果-1

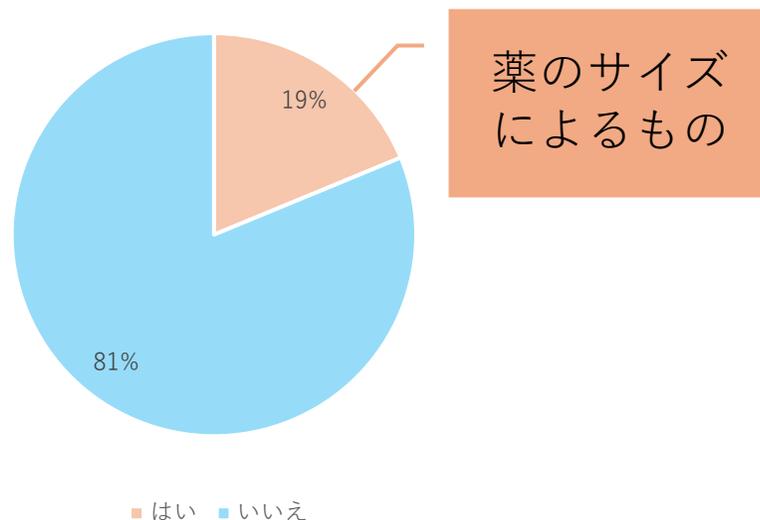
Q3 ①~⑤

服用方法を守れていますか？



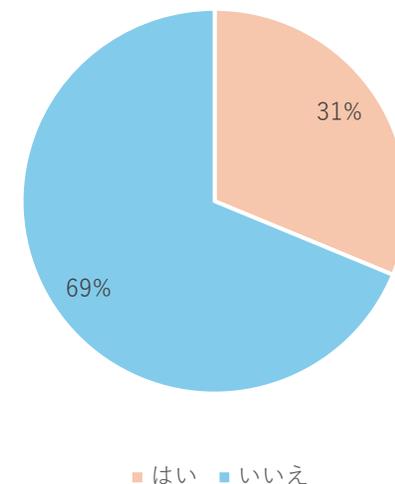
Q7

胸やけ、飲み込むときの痛み、飲みにくさはございますか？



Q8

副作用に食道潰瘍があるのをご存知ですか？



【服用状況】ほとんどの患者さんが正しく服用されていた。

【副作用】16人中3人が「飲みにくさ」を感じていたが、薬のサイズによるものだった。

→食道潰瘍等の副作用はみられなかった。

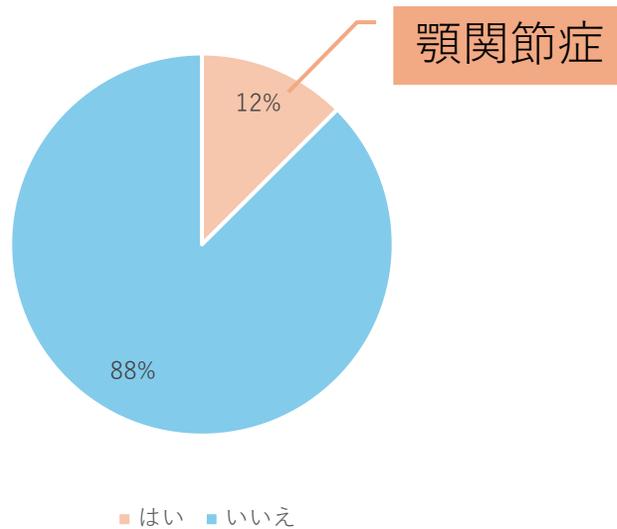
【薬識】副作用「食道潰瘍」を知っていた患者さんは全体の31%と少なかった。

→副作用防止のためとは理解していない

結果-2

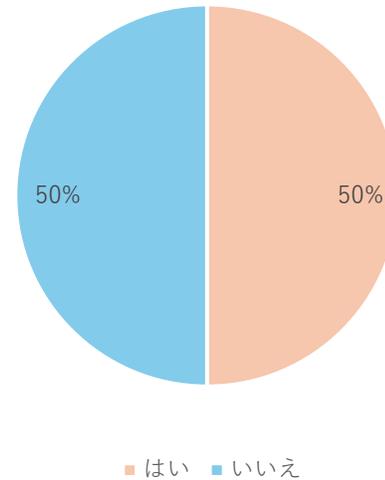
Q6

顎付近に痛みはございますか？



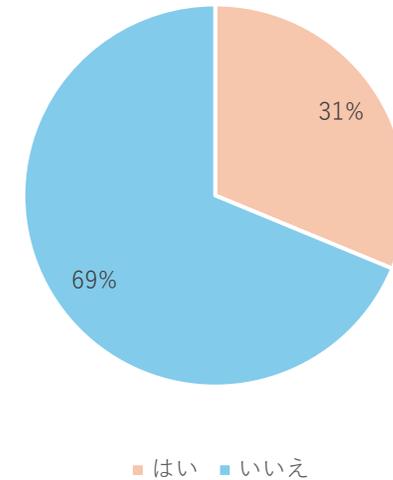
Q4

現在歯科受診されていますか？



Q5

歯科受診した方がよいことをご存じですか？



【副作用】 16人中2人が顎付近に痛みを感じていたが、顎関節症によるものだった。

→顎骨壊死はみられなかった。

【歯科受診しているか？】 全体の半分の患者さんが歯の定期健診をされていた。

【薬識】 歯科受診したほうがよいことは約30%の患者さんしか知らなかった。

考察-1 【用法】

99%とほとんどの患者さんが正しい服用方法を行っていた



服薬指導や指導箋のおかげ

考察-2 【副作用】

	食道潰瘍	顎骨壊死
発症頻度	0%	0%
副作用に関する薬識	約30%と低かった	約30%と低かった

【原因】

用法については指導していたものの、「副作用の患者教育」や「歯科受診を勧める」まではカバーできていなかった

→ 副作用についての薬識をもっていないと、実際に副作用が出てしまった時にBP製剤の副作用と気づけずに、治療が遅れてしまう危険性があります。

薬剤師として

初回：用法 2回目以降：正しく服用しているか確認、副作用について教育、定期的な歯科受診を勧めるなど

謝辞

実習においてご協力くださった

磯野元三先生

磯野一恵先生

住田基樹先生

ならびにイソノ薬局の皆様方

深く感謝申し上げます。

参考情報